



たかしま有機農法研究会の活動について

～ ふるさと高島より ころろつながるお米、お届けします～



平成23年2月25日
たかしま有機農法研究会

Website <http://ikimonotanbo.jp/>
E-mail info@ikimonotanbo.jp



たかしま有機農法研究会 概略


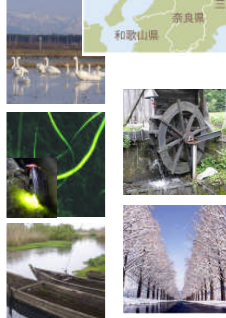
- 滋賀県高島市の豊かな自然環境を活かしながら、環境共生型の米づくりを実践。
- 「生活者(消費者)」「生きもの」「農家」が安心できる、持続可能な仕組み作りを目指しています。
- 活動時期: 平成18(2006)年～
- 市内農家 13軒 16名(※うち、20代 4名)がコアメンバー
 - 会長: 梅村元成、副会長: 堀田金一郎、田村勇、采野哲
 - オブザーバー役として、高島市役所
 - 技術協力者として、アミタ持続研、民間稲作研究所 等
- 主な活動
 - 栽培技術の開発・共有 (無農薬・無化学肥料の米・大豆づくり 等)
 - 生きもの共生策 (魚道やビオトープ設置、冬期湛水の実施 等)
 - 販売・マーケティング (「たかしま生きもの田んぼ米」の販売、情報発信 等)
 - 交流イベント (京阪神の消費者、学生、児童 等)
 - 後継者の発掘・育成

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

里山の美しき ふるさと高島

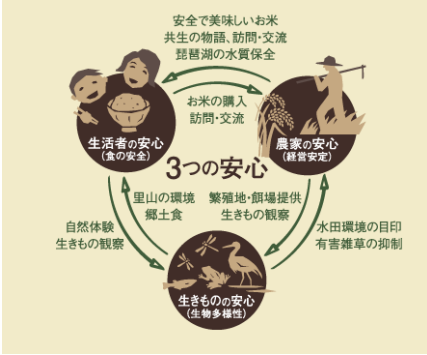
- 滋賀県高島市は、琵琶湖の北西岸にあり、日本海側との脊梁山脈を背後にした地域です。
- 豪雪地の山里から、湧き水が豊かな湖岸の集落まで、多種多様な「ふるさと」の景色があり、その美しい里山の風景はNHKスペシャルの映像詩「命めぐる水辺」や国際的な写真家・今森光彦氏の作品でも知られています。
- 「万葉集」に地名が残るほど長い歴史を持ち、古くから自然との共生の文化を育んできた土地柄です。伝統的な生活文化、なりわいが今も残されています。
- 昔はどこにでもあったはずの景色や、どこにでもいたはずの様々な生きものたち、懐かしい味わいや香り、音などが、今もゆっくりと息づいています。
- 京阪神からのアクセスもよく、観光などで訪れる人も増加傾向にあります。大都市圏に暮らす人達が失いつつある「ふるさと」の姿、がここにあります。

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

たかしま有機農法研究会が目指すもの

- 「生活者(消費者)」「農家」「生きもの」が共に安心できる関係づくりを目指し、関係者と連携しながら、各種活動を進めています。



「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

「たかしま生きもの田んぼ米」について

■ 定義

- たかしま有機農法研究会に所属する市内農家が、下記の栽培規定で栽培し、共同で販売を行うものが「たかしま生きもの田んぼ米」です。

■ 平成22年度

- 面積: 約12ha
- 品種: コシヒカリ、ミルキークイーン、ササニシキ、滋賀羽二重

たかしま生きもの田んぼ米 栽培規定抜粋(平成22年度版)

項目	必須項目
栽培方法	<ul style="list-style-type: none"> ●化学農薬・化学肥料の使用制限【栽培期間中 化学農薬・化学肥料不使用】 ○化学農薬⇒栽培期間中不使用 ○化学肥料⇒栽培期間中不使用 ●種籾の温湯消毒
生きもの共生策	<ul style="list-style-type: none"> ●「自慢の生きもの」を3種以上設定(上限なし) ●中干し延期を原則的に実施(梅雨明けが自安) ●その他、生きもの共生策の実施(水田内ピオトープ、水田魚道・亀かえるスロープ、冬期湛水、牛耕のいずれか1つ以上(上限なし))
水管理	●早期湛水 ●深水管理(アゾラが発生している圃場は対象外)
資源循環	●食味向上と安定収量に向けた施肥の実施(圃場土壌の経年的な窒素量の調整等)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●禁止事項 ・ジャンボタニシ、アイガモ、カブトエビによる除草※(※生物多様性保全や食味向上の視点から) ・紙マルチによる抑草 ・畦草への除草剤使用

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

参考: 高島の地に暮らす生きものたち



▲ 農薬・化学肥料不使用の水田の収穫時に群れ集まるチュウサギ(環境省RDB準絶滅危惧)



▲ ナゴヤダルマガエルを捕食するチュウサギ



▲ 中干しを延期実施した圃場の開断湛水時のナゴヤダルマガエル(環境省RDB絶滅危惧ⅠB類)



▲ 冬季湛水中の水田に餌と休憩場を求め群れるコハクチョウ



▲ 「沖繩を除く日本でもっとも絶滅が危惧されるカエル」のナゴヤダルマガエルだが、高島市の琵琶湖周辺の水田では最優占種かつ濃密に生息



▲ 健全な田圃里山の連続的な環境が生息に必要なニホンシガメ

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

生きもの共生策

■ 「たかしま生きもの田んぼ」では農薬や化学肥料の使用を厳しく制限していますが、その他にも、生きものたちへのさまざまな配慮を行っています。

① 自慢の生きもの探し

・田んぼの生きものは、その地域の環境条件によって顔ぶれが変わります。湖のほとり、平野部、山間部と、それぞれの環境に個性豊かな生態系が育まれている。「たかしま生きもの田んぼ米」を育む農家は、それぞれが耕作する田んぼやその周辺の生きものを調べ、田んぼと共に守り育てていく「自慢の生きもの」たちを見つけて出すことが求められます。

② 生きもの共生策

・「自慢の生きもの」たちが、より豊かに暮らすための工夫をそれぞれの農家が取り組みます。地域により、さまざまな共生策が展開されています。

- 中干しの延期実施
- 水田魚道の設置
- 亀かえるスロープの設置
- 避難用ピオトープ水路の設置
- 休耕田ピオトープの設置
- 冬期湛水水田
- 牛耕の復活 など

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

参考: 高島の地に暮らす生きものたち(続)



▲ 琵琶湖から産卵のため水田に遡ってきたナマズの親魚



▲ 安定的な湿地環境を好むハラブイトンボ



▲ メダカ(左)とカネヒラの幼魚(右)



▲ 琵琶湖特産種のニゴロブナ。名物のフナ寿司の最高級素材。



▲ 金沢市と高島市、福井県でのみ生存が確認されているハツタミズ(環境省RDB準絶滅危惧)



▲ スジシマドジョウ大型種(環境省RDB絶滅危惧Ⅱ類)



▲ 地下水が湧く農業用水路には冷水性のドワマスやアユも



▲ 全国的に生息数が減少しているガムシ(成虫)

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

「たかしま生きもの田んぼ米」の販売

9

- マーケティング・販売ツールの作成と広報・パブリシティ活動を積極的に実施しています。

主なツール



「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

米穀店をはじめとした流通関連の皆様との連携について(続)

11

ライスエイトアクション

※平成21年より関東・東海の米穀店と共同で基金プロジェクト(ライスエイトアクション)を開始。



- ライスエイトアクション コンセプト
 - ライスエイトアクションの8(エイト)は末広りの八、横にすれば∞(無限大)。田んぼが育む様々な生きものたちと、こだわりの農家、そして米穀店と食べる方。ライスエイトアクションは、お米にかかわる多くの想いをつなげ、食と環境を守り育て続けるための活動です。
- ライスエイトアクション 基金の概要
 - たかしま生きもの田んぼ米1kgご購入いただく毎に、8円を基金として積立てます。
 - 基金は、水田魚道やビオトープの設置など、田んぼの環境づくりに投資します。
 - 積立状況や田んぼの環境づくりの様子は、店頭やホームページでお知らせします。

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

米穀店をはじめとした流通関連の皆様との連携について

10

- 個々の消費者のこだわり・要請に対応する。農家とも向き合い、その想いを消費者に代弁する。米穀店をはじめとした流通関連の事業者の皆様は、農家と消費者をつなぐ、重要な橋渡し役を担っておられます。
- そのような方々と連携をとりながら、関係をもつすべての方々が共に安心できる、関係づくりを目指しています。



遠くは関東から高島に來訪いただき、農家との交流や、米づくりや生物共生業の視察などを実施

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

里山・高島のファンづくり

12

- 地元高島に加え、関西圏・関東圏でのイベント出展も積極的に行っています。



「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

- 高島市内の他の事業者などと共同して、高島の魅力のたっぷり詰まったセット商品の開発・販売も行っています(「究極の卵かけ御飯セット」など)。
- たかしま生きもの田んぼ米の稲わらとそこに付着している天然の納豆菌、そして、同じく化学農薬・化学肥料不使用の大豆(滋賀県在来のみずぐり等)を用いて、天然わら納豆を生産。平成21年より本格販売を開始。



「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

- 栽培技術の向上
 - 民間稲作研究所や県の普及所からの技術的アドバイス、農家間での情報交換・試行錯誤を経て、初めて農薬不使用栽培に挑戦した若手農家でも反収6~7俵を確保できるように。
 - また、食味の安定・向上に向けた意識の高まりと実践がみられるように。
- 生物多様性の向上
 - ナゴヤダルマガエルが一匹もいなかった田んぼに2年目から大発生(朝日新聞滋賀県版でも取り上げられました)。
 - 圃場整備以来、初めて田んぼにフナやナマズが産卵のために帰ってくるようになった田んぼも多数。
 - 高島でも絶滅寸前だったメダカがビオトープで大繁殖!
 - 冬期湛水の田んぼでは様々な冬鳥たちがやってきています。

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

- 栽培
 - 米(たかしま生きもの田んぼ米)
 - コシヒカリ、ミルキークイーンに加え、ササニシキ、滋賀羽二重の栽培・販売も開始。
 - 農薬7割減バージョンを廃止し、全面的に「栽培期間中 化学農薬・化学肥料不使用」へ転換。
 - 「栽培期間中 化学農薬・化学肥料不使用」の栽培面積も平成21年度より拡大。
 - 大豆
 - 納豆小粒に加え、在来大豆(みずぐりなど)の栽培も開始。
 - 事業者と共同で、天然わら納豆、こだわり味噌・豆腐づくりも実施。
- 生きもの共生策
 - 今森光彦氏と連携しながら、さまざまタイプのビオトープづくりを実施。
 - 平成22年度からは全ての圃場(たかしま生きもの田んぼ米として出荷予定分)で、何らかの生きもの共生策を実施。
- 人材育成・組織づくり
 - 新たに有機農法に取組む、市内農家の発掘・育成を実施。
 - 栽培技術や生きもの共生策などの勉強会も定期的に開催。
- 販売活動・交流活動
 - 流通事業者の皆様や消費者の皆様との交流活動を進展(高島及び都市圏でのイベントなど)。
 - 関東・東海地域の米穀店と共同して、基金プロジェクト(ライスエイトアクション)を開始。

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

- 販売チャネルの増加、販売単価の向上
 - 関東東海地方でのこだわり米穀店ネットワークが9店舗に。
 - 高島屋京都店でも販売が始まりました(2008年12月より)。
 - 直販での小売単価は、白米精米5kgで 3,550 円。
- 市内外の関係者とのつながりづくり
 - 合併した6町村の農家が互いに協力・研鑽し合う仲間に。
 - 市外の農家も共に栽培技術や生きもの共生策の研鑽に参加。
 - 地域の小学生や都市住民との交流も。
 - 生きものたちもたくさん集まってくる、にぎやかな田んぼになりました。
- 認知度の向上
 - 新聞、雑誌、テレビ(ニュース番組、テレビ東京系列「ガイアの夜明け」、日本テレビ系列「ZERO」・「エコ特番(Touch! Eco)」など多数

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会

ご静聴ありがとうございました。

17

たかしま有機農法研究会 販売部会

【連絡先】

〒520-1234 滋賀県高島市安曇川町四津川614
Tel(専用) : 0740-20-1485 Fax : 0740-34-0098
E-mail : info@ikimonotanbo.jp

「たかしま有機農法研究会の活動について」たかしま有機農法研究会